

合唱団ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/yokohamasiunai/gassyoudan/>

東京で大停電が起こったとき、丁度このきかん紙を作っていました。大体できあがったとき、突然パシッとパソコンが消え、すべて失われました。というわけで、再度作り直しました。今回は、2人からの寄稿です。

合宿を振り返って（練習内容以外）

お疲れ様でした。

4年ぶりの本格的な合宿で疲れましたが楽しかったですね。全員集合どころか、久しぶりの「こぶつき」でした。「大こぶ」が2名、「微小こぶ」が1名で、最大人数は19名(S4, A4, T3, B5, 他3)となりました。生後3ヶ月の赤ちゃんの泣き声を聞きながらの練習というかつてのシーンが戻り、昔をなつかしみながらの3日間でした。

「微小こぶ」は少し時間が経ったら慣れてきて、歌っている曲によって機嫌が良くなったり泣き出したりと、こちらが歌うのを聞いていてくれるかのような様子でした。そして、小母様・小父様たちは忘れてしまった昔を孫のために思い出すべく、入れ替わり立ち代り育児訓練にはげんでいました。しかし、S・Sさんのお手並みはさすがにお見事!! Aさんは、初めての、そして赤ちゃんを伴っての合宿は大変だったと思いますが、楽しめていただけましたでしょうか。

Sテナーが久々のカムバック。職場から駆けつけてくださったのですが、Mテナーとふたり揃う時間がなかったのは残念。でも久しぶりにSテナーの声を聞くことができました。リトルSも久々の登場。YOちゃん（もう高校3年ですからYOクン）はSHUお兄ちゃん（こちら立派な社会人ですからSHUさん）を完全に追い越した優しい顔の大男に成長。SHUさんは曲がったことは決して許さんという厳しい顔つきなのですが、お母さんを練習している鶴見の教会まで車でいつも送り迎えしてくれている優しいお兄さんです。MAさんは、今回はお留守番とのことでしたが、教会では時々顔を見せてくれています。帰路はSHUさんの運転で家族そろってドライブのようでした。合唱団で育った子供たちはみな立派な青年・成年に成長してくれているようです。

新人（というよりは結果的にヘッドハンティング）のARAさんはJ・Iさんと意外な接点があることが発覚。J・Iさんの初めての赴任校は分校でしたが、J・Iさんの持った学年の本校組に彼が在籍。ひとつ間違えばARAさんはJ・Iさんの初めての教え子になるところだったとのこと。良かったですねー。世の中は狭い!! そして、ARAさんはその頃からの合唱オタクだったことも判明。少しずつボールがはがれてきました。私たちも教えていただけることが沢山ありそうです。ARAさんの多くのご希望曲の中から、今回は武満徹の「小さな空」を練習曲に加えました。われわれの持ち味を生かすアドバイスを沢山いただけそうです。

同じく新人（というよりは転職組でしょうか）のISHIさんは横国大混声の後輩になるのですが、私が強引に誘ったので仕方なく来ることになったのかと思いきや、奥さんにこれ幸いと追い出されたことが判明。私もそんなに強引にしたつもりはなかったもので納得しました。合宿中のご自宅では

奥さんが友人の方たちと盛り上がっているとか。ISHIさんご自身は昔取った何とやらはさすがで、ベースはますます充実。ISHIさんの提案で9月からは練習時間を16:30～18:30と30分繰り上げてみることにしました。何でもないことのようにですが、従来組からはそのような発想はなかなかできませんでしたね。

Y・Yさんは前日までの東北旅行から駆けつけてくださいました。このファイトというか



エネルギーを私たちに注入していただけるのはありがたいことです。そして、Y.Yさんの豊富な経験談を聞けるは大変貴重ですね。アルトも4名となり、ソプラノと対等となりました。Y.Yさんご希望の「旅」からの2曲を練習曲に加えました。楽しんでいただけるといいのですが。

1日目の夜の懇親会はMテナーの還暦直前を祝しての乾杯でスタート。2日目の夜の練習は、J.Iさんは早く飲もうよといていたのに、皆さんからなぜ練習しないのと突き上げられてやった次第。本当に皆さん歌うことが好きだということがわかりました。その後は、前記の通り、新人が揃ったので、自己紹介で盛り上がりました。T.Aさんはどうしてもその日のうちに帰るということで、女性ふたりにがっちりガードされて、ビールは一滴も口にすることなく車で宿舎を後にしたはず…。朝帰りは許されない状況なのでしょうね。

最終日は、T.Aさんからお借りしたシートピアノを使って、男女に分かれて何年ぶりかのパート練習を行いました。パート練習でのつまらない旋律が合わせるとすばらしいハーモニーになる感触を久しぶりに味わいました。そして、最後の最後に歌った「鷗」では、疲れがどっと出た感じでしたね。

いずれにしても、あつという間の3日間でしたが、とても充実した楽しい時間を過ごせたと思います。I家の(今回は大学生になったYさんの)おかげですばらしい合宿所を独占して使うことができたことも特筆しておく必要があります。予約から会計報告までありがとうございました。

これからも、美しいハーモニーを作る楽しさを存分に味わうべく、声を合わせ、心を合わせて、歌っていきましょう。(2006-08-15 T.I)

北アルプスだより

暑い日が続いています。小さかったころ、「2000年はいつ来るんだろう」と、遠い未来のように感じていましたが、とうとうやってきて、過ぎてしまいました。そして、私は今年還暦の年になってしまいました。山の上でこの日を迎えようと、昨年から計画を立て、常念岳を目指しました。8月11日がその日なのですが、林道が一部崩壊しているため、2時間よけいに歩かなければならなくなり、登りに7時間も要したため、11日は常念小屋止まりとなってしまいました。



12日の朝6時に頂上に立つことができ、穂高連峰や槍ヶ岳をのぞむことができました。その右方向の鹿島槍方面もうっすらと見え、黒姫方面や八ヶ岳方面も霞んではいましたが、遠望できました。幸福なひとときでした。

「遠ければ遠いほど波立つ山よ...」、わたりどりの曲の通りです。

強風で寒く、天候が悪くなるような気配を感じたため、燕方面はあきらめて、下山することにしました。案の定、下山途中で、霧となり、雷雨となってきました。それが上にあがって行きました。光と音で恐怖を感じながら、一の沢避難小屋に着いてホットしました。練習を休んだ罰かと感じました。

常念岳2854mの麓からのシルエットはとてもきれいです。何枚か映像をご覧下さい。白い花は頂上近くで撮影した「トウヤクリンドウ」です。(Y.M)

